

きずな通信 No.23



2017年1月1日
発行 みやぎ地域づくり交流会
事務局 宮城公民館内

地域づくりは人づくり、ふるさとづくり



第9回みやぎいいもん祭り盛大に開催

毎年恒例となりました、第9回みやぎいいもん祭りを11月6日(日)に開催いたしました。今年も芋をテーマにした「いいもんケーキ、いいもん汁、焼きイモ」や長い行列となった宮城地区畜産連絡協議会様による焼肉や北爪農園直売所様のあんびんなどの数々の模擬店が並び、また話題となった遊具のふわふわころとん登場などで、沢山の子供連れの家族が参加し、楽しい催しがおこなわれました。当日は、天候にも恵まれ、今年も沢山の来場者でにぎわいました。ご尽力頂いたボランティアをはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。また来年度は10周年を迎えるにあたり、来場者がさらに楽しめるよう企画を検討していきたいと思っております。
(委員:大崎博之 記)



食べ物屋さんには行列が出来ますね



若葉高等学園様とコラボ みやぎ七字クッキー販売



焼き芋販売



焼肉

荒砥川をつなぐ3地区で源流探訪会を開催

源流探訪に参加して

自治会連合会長 樺澤 俊

10月30日(日)に城南地区と大胡地区とみやぎ地区の地域づくり関係者による合同イベント「荒砥川の源流探訪会」を開催しました。赤城山も一面紅葉がきれいでしたが、すでに落葉が始まっていました。源流を探索して参加者自身の目で見て感じて郷土の自然に親しみ今後の美化運動への意識向上や他地区との交流が図れた様に感じました。また、みやぎ地区の女性会員の皆さんによるトン汁をふるまっていたいただきました。自然の中でみんなで食べたトン汁「美味しかったなあ。」

(委員 大崎博之記)



「学校なんか行けねえ、早く帰んな」大人たちの怒号と形相は今も私の中に残っている。小学校2年の時だった。カスリン台風襲来の朝、学校に向かって野口商店のところへ行った時の事である。恐怖におびえながら家まで走りかえったのを覚えている。「会長さん荒砥川源流探訪に参加しませんか」と役員さんに誘われた時も一歩引いたのは、私の体に残っている流石を巻き込んだ濁流の音と、大人たちのすさまじい形相がよ

みがえって来たからだと思う。しかし、心を奮い立たせ参加させていただいた。紅葉を愛でながらの源流との出会いは、水に対する私を一変させた。自然から湧き出た清流の音は心をどんなにか安らかにしてくれたことだろう。水と人間との関係は深く、水なしでは人類の繁栄はないといっても過言ではないだろう。私の七十年余りの歩みは濁流の連続であったように思う。しかし、これからは、清流の音にしっかりと寄り添い心を和ませながら歩み続けたいと思います。

宮城地区のよもやま話 ①

苗ヶ島の「ケ」

まず、「ケ」はカタカナの「ケ」ではなく、「箇」の竹冠の一部「ケ」を使用している略字です。箇は「コ」または「カ」と読み、苗ヶ島の「ケ」は「苗」と「島」の助詞で、関ヶ原や茅ヶ崎のように「が」と発音します。苗ヶ島の「ケ」は前橋市との合併前は大文字(ケ)でしたが、合併時、町名の文字を確定するため、「ケ」を使用している自治体に問い合わせたところ、六ヶ所村、鶴ヶ島市などほとんどの市町村が小文字の「け」を使用、大文字使用は鳩ヶ谷市、保土ヶ谷区、三ヶ日町など一部でした。

また、パソコンで固有名詞を入力するとすべて小文字(け)で変換され、地域の方も日常抵抗なく小文字「け」を使用しており、特に大文字(ケ)に確定する特別な事情もないので、小文字(け)に統一したものです。

なお、合併前に出版された日本加除出版の市町村役場便覧などには修正前の「苗ヶ島」と大文字で掲載されています。

(委員 五百部 記)

